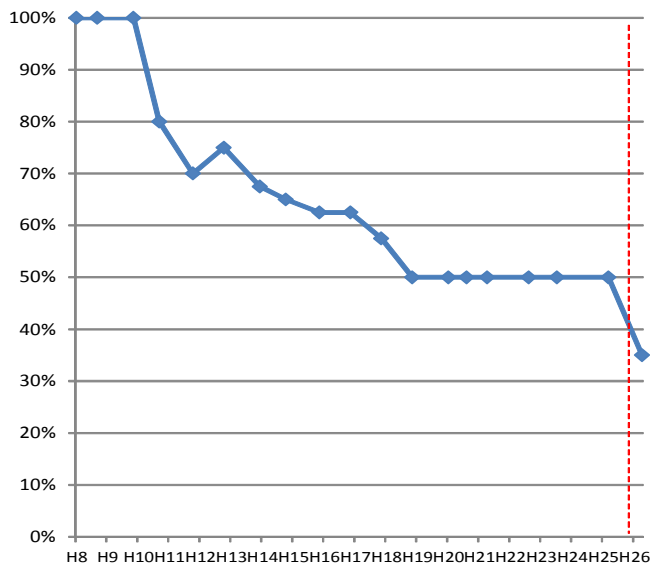


樹種名	ツクバネガシ	
科目	ブナ科	
学名	<i>Quercus sessilifolia</i>	
分布	宮城県・富山県以西の本州、四国、九州、国外では台湾に分布する常緑高木。	
樹木特性	半陰樹であり、シイ類が優占する地帯よりも標高が高いところに生育している。	
用途	建築材、器具・楽器材、しいたけ原木として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	60本/0.02ha (3,000本/ha)	
特徴	<p>【樹形】 ツクバネガシ（衝羽根樅）はブナ科コナラ属の常緑広葉樹である。 葉は楕円形、やや扁平で表面はつやがある深緑、裏面はやや色の薄い緑色。葉縁には鋸歯がない。芽が伸びたあとに鱗片がぶら下がり、葉の付け根にしばらく残るのも特徴である。 雌雄同株で花期は5月頃、雄花序は垂れ下がった形で黄褐色の雄花を多数つける。雌花序は葉腋に直立し3~4個の雌花をつける。 沢沿いの急斜面を好む。柾目・板目ともに美しい紋様があり、紫檀の代用としても用いられる。 堅果は翌年秋に成熟し食べられる。 名由来は枝の先に葉が4個あり、やや輪生状に並ぶ様子がツクバネに似てることからついた。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生している。このことから、山引き苗を補植した。 他のカシ類と比較すると現存率も35%と低い結果であった。	  
被害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：3本、カミキリムシ類：3本)	

ツクバネガシ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生していた。

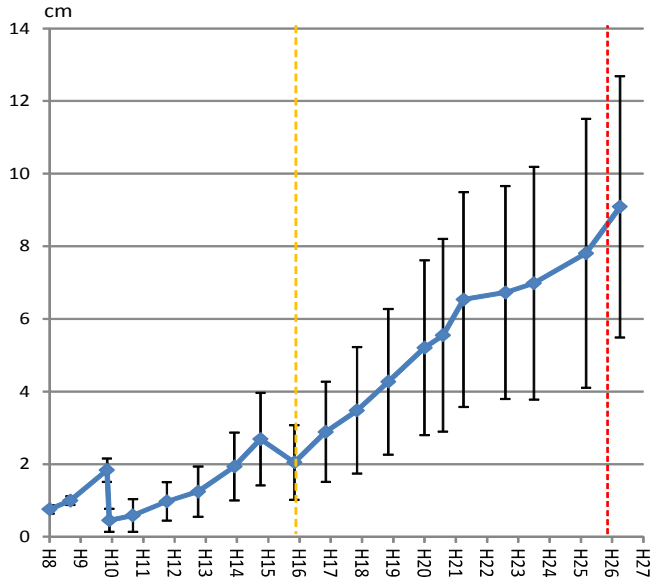
平成 20 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため平成 21 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 35.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ツクバネガシ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

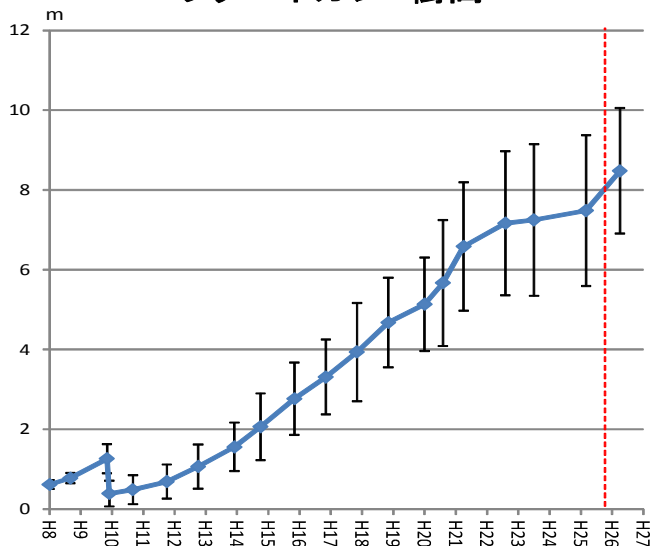
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 9.09 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ツクバネガシ 樹高



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 8.48m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

